

小原田中 文化の祭典

[教育目標]

健 自 責
康 主 任

小原田中だより

令和7年10月号
郡山市立小原田中学校
校長 関根宏房

ホームページURL
<https://koriyama.schoolweb.ne.jp/072000>



友垣祭



十月十七日(金)小原田中学校の学校祭、友垣祭を開催しました。一年間の中学校生活の中で、子どもたちのエネルギーが最も表出する一日であるとも言えます。

合唱コンクールのように教科の授業での成果が見えやすいものもあれば、総合的な学習の発表のように、一見教科の授業とは関わりが薄いように見えて実は、構想力、文章表現力、発表力と、国語科、社会科をはじめ美術科など複数教科で培われた学力が必要とされ、さらには自身の学びのきっかけとなるキャリア教育にまでつながるものなどもあります。

生徒会役員が中心となって行う開閉会行事やパソコン部、吹奏楽部の発表の中には、劇により表現する部分があります。この子どもたちが、観客である全校生、保護者の前に立つまでに必要な能力、努力はかなりの量となります。

まずは、「伝えたいこと」を明確にする必要があります。そしてそれをどう伝えるのかを考え、概要をみんなで見え、シナリオを作ります。さらに役割を決め、動きにより表現するという過程を経ます。ここには、子どもたちの主体的、対話的で深い学びを伴う協働的な学びがあり、文章で、演奏で、演劇で、何種類もの方法で表現する高度な学びとなります。学校祭が盛り上がり充実する学校の生徒の能力は高いと評される所以かと思えます。今後も子どもたちの未来に向け、様々な取り組みをして参ります。

西田敏行先輩 追悼の儀



KFB福島放送ニュース 2025年10月17日 12時56分

西田敏行さんのご命日となる十月十七日(金)、小原中学校としての追悼の儀を行いました。当日は、朝早い時間帯にもかかわらず、多くの報道関係者が取材に訪れ、本校の取組、子どもたちへの声の届けてくださるなど、全国の子どもたちも、偉大な先輩の影響の大きさを、実感するとともに、その想いを受け継ぎ、小原田中の伝統として引き継いで行くことの重要性を感じたことと、思います。

さて、今回の追悼の儀、純粋な子どもたちの想いが、歌声やインタビューで表出され、実に感動的なセレモニーとなりましたが、私の心を揺さぶった後日談があります。

週明けとなった二十日(月)の朝、西田さんの同級生のお一人である安倍元恵さんが学校にお見えになりました。追悼の儀での追悼の辞、子どもたちの歌声にとっても感動したことをお話しになった後、静かに話し始めました。「実はこの一年の間、西田くんのことが、どうしても気持を整理できずにいました。他の同級生が気持ちに整理をつけて話しているのを聞いて、なぜか吹っ切れるのか自分にはわかりませんでした。でも、追悼の儀をやってもうって、やっと吹っ切れました。」そして、その要因として元恵さんは、「子どもたちが歌う姿、発表する姿を見て、西田くんができることがまだあるという感じがわかったこと、二つめが、それが中学校でこれからも代々受け継がれていくという道筋が見えたこと」ということでした。

私たち、小原田中でやるようにしていることが、こんなにも早く役に立ったというのに、私は心を動かさずにはいられませんでした。また、元恵さんは、この一年間自身で触れることもできなかった西田さんの遺品を二つ(キーチェーンとTシャツ)、学校に託してくださっていました。校長室で大切に保管しています。

「胸を張り誇らしく、歌いながら廊下を大きな声の今日この頃です。」

追悼の儀で追悼の辞、子どもたちの歌声にとっても感動したことをお話しになった後、静かに話し始めました。「実はこの一年の間、西田くんのことが、どうしても気持を整理できずにいました。他の同級生が気持ちに整理をつけて話しているのを聞いて、なぜか吹っ切れるのか自分にはわかりませんでした。でも、追悼の儀をやってもうって、やっと吹っ切れました。」そして、その要因として元恵さんは、「子どもたちが歌う姿、発表する姿を見て、西田くんができることがまだあるという感じがわかったこと、二つめが、それが中学校でこれからも代々受け継がれていくという道筋が見えたこと」ということでした。

私たち、小原田中でやるようにしていることが、こんなにも早く役に立ったというのに、私は心を動かさずにはいられませんでした。また、元恵さんは、この一年間自身で触れることもできなかった西田さんの遺品を二つ(キーチェーンとTシャツ)、学校に託してくださっていました。校長室で大切に保管しています。

「胸を張り誇らしく、歌いながら廊下を大きな声の今日この頃です。」